

# 駅伝発祥100年で石碑

## 東山 三条大橋東詰に設置

日本の駅伝発祥100年 総局など後援)として、東の記念事業(読売新聞京都) 山区の三条大橋東詰に石碑



駅伝発祥100年を記念して設置された石碑(中央、東山区で)

が設置され、29日、除幕式が行われた。

駅伝は1917年に東京遷都50年を記念し、京都・三条大橋―東京・上野不忍池間を関東組と関西組の選手が3日間かけて走ったのを起源とする。日本陸上競技連盟(東京)などが2002年にスタート地点の三条大橋に記念碑を設け、今回、その横に京都陸上競技協会が石碑(高さ約1・8材、幅約1・2材)を設置した。

式典には府内外の陸上関係者が参列し、日本陸連の横川浩会長が「100年で『駅伝』は世界の共通語になった。先人の努力に思いをはせると厳粛な感動を覚える」とあいさつ。同協会の田中セツ子会長は「ランナーが都大路を気持ちよく走れるよう頑張りたい」と話した。